

解 説



第27回品質工学研究発表大会振り返り

Review on the Papers in the 27th Robust Quality Engineering Society Annual Meeting

審査表彰部会

安藤 力^{*1}

Chikara Ando

明吉 秀樹^{*2}

Hideki Akiyoshi

浜田 和孝^{*3}

Kazutaka Hamada

吉澤 正孝^{*4}

Masataka Yoshizawa

田村 希志臣^{*5}

Kishio Tamura

1. 振り返りの進め方

田村 第27回品質工学研究発表大会の振り返りを行う。振り返りとして、これまでは発表賞を授賞した研究、注目すべき研究を個別に取り上げて、その研究の価値や意義、今後の期待について議論してきた。今回からは進め方を変えたい。品質工学会は「理想を目指して 新たな品質工学の道」と銘打って、品質工学会の理念に相当する「目指すところ」、中期活動計画となる「ビジョン30」、そして品質工学会の価値基準として「大切にすること」を掲げている。これを受けて、理念、中期計画、価値観の観点から研究発表大会を振り返ることにしたい。つまり、研究発表大会をマクロ視点で捉えて振り返る。そのうえで、個別の研究発表にも触れていきたい。

吉澤 あらためて品質工学会の「目指すところ」「ビジョン30」「大切にすること」を確認しておく。

田村 最も大切な視点は、最初の「目指すところ」だ。この3項目を中心に今回の大会ではどのくらい実現されたのか、近づけたのかを振り返りたい。

吉澤 確かに、最も問わなければいけないところだ。

*1 富士ゼロックス(株)

*2 明吉事務所

*3 Hamada Quality Solution

*4 クオリティ・ディーブ・スマーツ(有組)

*5 コニカミノルタ(株)

[目指すところ]

品質工学の開発・研究を通じて、あらゆる分野における総合的な評価体系を提供することで以下に貢献します。

1. プロセスの生産性の向上
2. 製品・サービスの創出
3. より豊かで自由な社会の実現

[ビジョン 30]

30周年に向けて、常に全体最適を考え、いかなる場合も顧客視点での評価技術を継続的に提供し、以下を実現します。

“あらゆる分野に評価でイノベーションを”

1. 自己実現と社会認知
2. 新しい品質工学の考え、手法の開発
3. イノベーションへの貢献

[大切にすること]

私たちは、田口玄一の考え、考え方を良く理解し、以下のことを大切に行動します。

1. 高い志で創意工夫し、目的志向で継続的に取り組みます。
2. 機能的評価と最適化の考え・手法を開発します。
3. オリジナルな研究を実例で行います。
4. 正しさの追究でなく、経済的な優劣で議論します。